



みんなでやった ぜんぶやった 文化祭

校長 鴻野 誠

第55回田園調布高等学校文化祭「ぼろにあ祭」が令和元年9月14日（土）15日（日）に開催されました。文化祭実行委員の生徒を中心に様々な企画やその準備を計画的に進め、ホームルーム、委員会、部活動などの団体による演劇、飲食、展示、アトラクション、公演、発表があり、本校の伝統や文化を感じさせる内容でした。また、PTA、清流会、月日会、財団法人田園調布の皆様のご支援・ご協力を賜り、成功裏に終えることができました。厚く御礼申し上げます。

今年度のスローガンは、JUST YOUR SMILE ～君だけの笑顔の花を咲かせよう～ です。「まず、自分自身が楽しもう、次に仲間と協力してやろう、最後に来校する方々をおもてなししよう」この3つのことを開会式で話しました。生徒は、見事に実行し、スローガンに向けて一致協力して取り組むことができました。改めて ONE TEAM、ONE DENKO の力強さを感じ、生徒に敬意を表するところです。

第1日目は、午前中は校内公開として、3年生の演劇を全校生徒で観ました。そして、午後から一般公開、第2日目は、全日一般公開で2日間大変多くの方々に来校していただきました。特に、中学生とその保護者の方が多く自主・自律を重んじながら、生徒が楽しく手作りで仕上げた文化祭を堪能していただけたと思います。

閉会式では、文化祭に向けて取り組んできた生徒全員に、実行委員長から達成感に満ちた話がありました。また、各賞受賞式も行われ、仲間の取り組んできた成果を仲間同士で讃えあいました。

オープニングセレモニーPR賞	2 E
パネル大賞	3 D
クラブ・委員会・有志団体最優秀団体賞舞台部門	ダンス部
クラブ・委員会・有志団体最優秀団体賞展示部門	かるた部
1学年最優秀クラス賞	1 D
2学年最優秀クラス賞	2 C
ステージ効果賞	3 E
脚本賞	3 E
優秀演技賞 3 D高橋恭彩 3 E鈴木涼火	3 D高橋恭彩 3 E鈴木涼火
奨励賞	3 F
演劇祭大賞	3 E
ぼろにあ祭最優秀賞	3 D

とても感動と記憶に残る文化祭でした。「みんなでやる ぜんぶやる」というメッセージを生徒は体得し、「みんなでやった ぜんぶやった」という達成感や成就感を得て、最高のパフォーマンスができた文化祭だったと思います。この経験、このパワーを次の目標・ステージにつなげていってほしいと思います。

理科の学び 【キーワード：研究室訪問、仮説と検証、ポスターの作り方】

副校長 牛込 俊裕

ぼろにあ祭も終わり、本年度も半分が過ぎようとしています。現在は中部学校経営支援センター特別指定校、東京都教育委員会進学指導研究校への取組、創立70周年記念行事と1年生が受講する大学研究室訪問の準備が進んでいます。ここでは最後に述べた研究室訪問について、理科教師としての所見を述べ、今後の学びに繋げます。

研究室訪問は1年生が12月に受講します。これを企画するにあたり、少なくとも1名は皆さんの先輩にご協力いただき、ご講義をお願いしています。一昨年度までは本校OBである、東京大学、影山教授にお願ひし、材料の「強さ」について教えて頂きました。先生がご退官されたため、昨年度より首都大学東京、内山教授にお願ひしました。内山先生はわが国最大の学術団体である日本化学会の役員として、青少年の育成に尽力され、現在は日本分析化学会の会長を務められています。化学を学ぶ者にとっては頂点におられる方で、この先輩と同じ学び舎で高校生活を送ることを生徒の皆さんは誇りに思ってください。また、後に続いてください。さて、本題である理科の学びですが、それについてここに整理します。

理科は科学の一分野です。一般に真理を追究する学問と言われますが、その研究方法は仮説とそれを検証するこ

とです。もう少し具体的に説明すると、次のように言えます。引用すると、「近代科学における諸命題は、ことごとく一種の仮説である。仮説であればこそ、常に、改訂、修正の余地が残される。(中略) それであればこそ科学者は、いくたびとなく、「既存の命題」を裁き、検証とを繰り返す。(中略) 科学者は決して真理なんぞ発見してはならない。「真理を発見」した瞬間に「科学」は科学ではなくなってしまう。科学にとって重要であるのは、仮説の検証である。」(引用：小室 直樹：田中角栄 政治家の条件、(株)ビジネス社、p145 (2017)) すなわち、真理と言うものがあり、それを発見することは近代科学ではありません。仮説を立てて検証することが近代科学です。

研究室訪問では、この研究を最先端で行っている研究室を訪問します。研究室の皆さんは貴重な研究の時間を半日止めて、私たちのために費やします。1年生の皆さんはしっかり準備したうえで参加してください。事前の学習はもとより、服装をはじめとしたマナーの徹底、ネクタイやリボンの緩みがないようにお願いします。また、昨年度受講した2年生の皆さんは、総合的な学習の時間に、探究的な学習活動を行っています。学年の先生より、現在は仮説を立て、検証の段階にあると聞いています。ポスター等にまとめて発表するとも聞きました。私自身も定時制課程勤務時に大学院へ籍を置き、同様の発表をしたことがあります。理系の場合はポスター(模造紙にまとめる場合も同じ)の作成に細かな決まりごと(作法)があります。参考まで、前任校で生徒と作ったポスターを図示します。困った場合は参考にしてください。

発表は年度末になると聞いています。これまで学習したことを総動員して仮説を設定し、それを正しい方法で検証する過程を知りたく、発表の時の楽しみにしています。

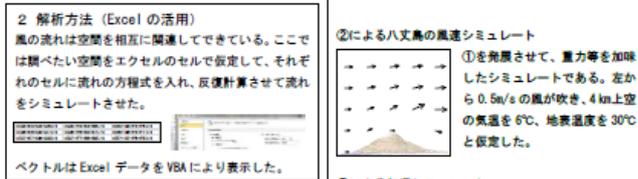
タイトル等 →



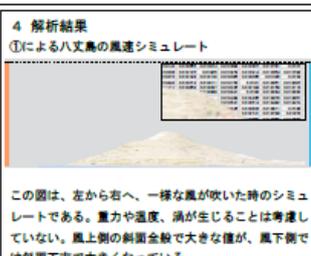
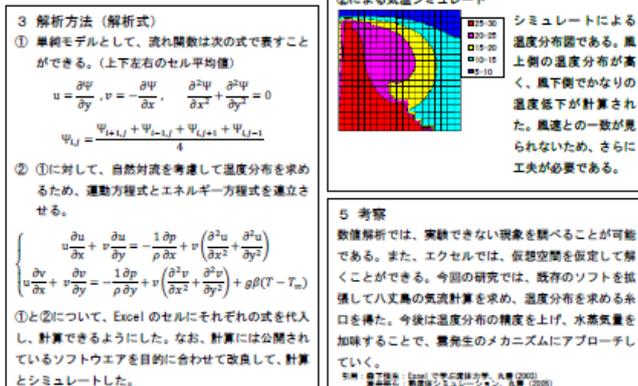
発表の概要 →



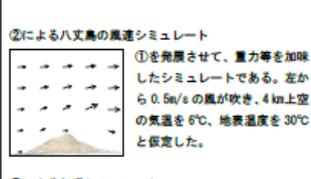
仮説の提示 →



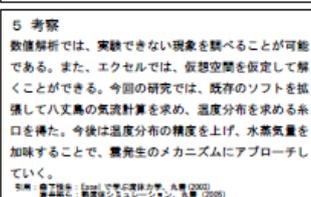
検証方法の説明 →



← 検証結果



← 結論と考察



※ 今回はないが、引用があればここに示す

進路指導部より

進路指導部 駒場 晃

田高進路プロジェクト2019 2学年対象「大学出張講義」について

6月12日(水)5・6校時に、第2学年全員を対象とした、「大学出張講義」を実施しました。大学の授業を実際に体験し、各分野の先生の講義を聞くことで、大学の授業の様子を知ると同時に、広く一般教養を高める機会になりました。

「大学出張講義」：講義タイトルと講師紹介

- 1 中央大学
「教室で学ぶ、街で学ぶ、勉強して学ぶ、遊びながら学ぶ」
- 2 早稲田大学
「死と向き合う人間—哲学的に考えてみる」

熊倉 広志先生

小村 優太先生

3 東京大学 「保育の『いま』 ～乳幼児期の世界を覗いてみよう～」	宮本 雄太先生
4 東京大学 「病気になるとはどういうことか？ー病むことと社会・文化との関係を考えるー」	山田 理絵先生
5 千葉大学 「合併銀行名の命名」	菅野 憲司先生
6 明治大学 「現代の物理学～超高速の光科学」	鈴木 隆行先生
7 東京大学 「生物のからだの作られ方を知り、そして利用する」	道上 達男先生
8 東京工業大学 「言葉を理解する賢いコンピュータ（人工知能）」	丹羽 彩奈先生
9 公立諏訪東京理科大学 「人工知能を作るために何が必要？」	尾崎 剛先生

9月以降の主な予定など

- 【3年生】 9月12日 指定校推薦 第1回選考会議
 9月19日 大学入試センター試験の志願票校内提出締切日
 10月 3日 成蹊大学説明会(大学別入試対策説明会)
 10月10日 明治学院大学説明会(大学別入試対策説明会)

一般(公募)推薦やAO入試の出願が始まりました。推薦書、調査書の依頼、願書の提出などの日程を意識しながら、生活しましょう。何事も早くから十分な準備をして、本番を迎えることが進路実現には必要不可欠です。対策説明会や赤本などを活用して、自分の目指す道を突き進んでください。

【2年生】10月9日(水) 大学説明会

15大学のうち興味のある2校を選択し、各大学のカリキュラムや特色について説明を受けます。2年生のうちに自分の進路について必要な情報や資料を収集し、じっくり考えていく機会にしてください。

【1年生】10月9日(水) 大学説明会

1年生は15大学のうち一つの大学を選択し、各大学のカリキュラムや特色について説明を受けます。また3クラス合同でベネッセの方より、進学に対する姿勢と大学で学ぶべき意義についての講演会を行います。自分の進路について真剣に考える機会と捉えて講演会および説明会に参加しましょう。

ぼろにあ祭を終えて

生活指導部 荻原 秀明

第55回ぼろにあ祭が実施されました。生徒の皆さんお疲れ様です。取り組みを一言で表現すると「完全燃焼」でしょうか。オープニングセレモニーを開始して3年、毎年工夫を凝らして、田高生みんなで盛り上がる意識が強くなってきたことが挙げられます。田高生としての一体感は、段々と田高生としての「誇り」へと発展していくのかもしれないね。演劇・展示・発表・調理・イベントどの企画も、今年はステップアップしたと評価が聞かれます。実行委員会では、「桐」の発行に向けて、ぼろにあ祭の今年の「まとめ」と来年度の準備が始まります。来年度のぼろにあ祭が楽しみです。

初めてのぼろにあ祭

第1学年 遠山 久也

高校生としてすべてが初めての1年生、今度の初めては田高の文化祭「ぼろにあ祭」でした。1学期のHR、イメージがわからないながら、クラスの実行委員を中心に少しずつ相談するところから始まりました。夏休みの登校日は決めたものの、部活動や補習とも重なってしまい、集まっているのは委員と少数の日替わりメンバー、おしゃべりなどをしながら日々を過ごし、夏休みの課題とともに不安を残しながら9月を迎えました。しかし、2学期の課題テストを終えたところから、作業のスピードが急速にアップ、特に前々日と前日には集中力を発揮し(激しい意見交換などもまじえながら)、開場直前には立派に完成させ、お客様を迎えることができました。

企画内容は、A組は「GARAXY DROP」、カラフルな装飾の中で謎解きとゲームが組み合わされたアトラクション。B組は「ちょっ暗迷路」、クイズを説きながらゴールを目指す難解な迷路。C組は「相方」、探偵事務所を模した教室にあるヒントをもとに校内を巡る人探し。D組は「田園ベガス」、教室を本格的なカジノに作り替え、ディーラーに扮した生徒とお客様とがカードゲームで対戦するといった企画で、1学年の最優秀賞を獲得いたしました。E組は「近くて遠い君」、アイドルに憧れるファンの想いから起こる事件を描いた劇と幕間のマジック。F組は「もとの映えスポット」、インスタ映えする撮影スポットを各種設定してお客様へ撮影のサービス。それぞれのクラスが知恵を絞り労力をかけ、多くの人が楽しめるものができあがったと思います。

また、クラス発表だけでなく、部活動での企画、舞台発表、演奏、展示や各種委員会・係などの仕事も果たし、それぞれが自分の特技を披露し、役割を自覚することにもなりました。

どの企画も主役は生徒、1年生とはいえ、自らが成し遂げようという責任感が行事の成功へとつながりました。彼らの楽しく進めていこう、協力し合おうという気持ちは、今後も仲間とのたくさんの思い出をつくっていくことでしょう。(1年生の皆さん、時間が過ぎるのはとても早いです。高校生としての貴重な時間を大切に過ごしてください。)

ぼろにあ祭の感動、そして修学旅行へ

第2学年 鈴木 誠士

2年生としてのぼろにあ祭、高校生活の折り返しにふさわしく様々な企画で学校を盛り上げくれました。そして各クラスが協力して準備にあたりギリギリまで築き上げたクラスの出し物はどれも質が高く、それぞれに魅力的なものばかりでした。お化け屋敷やゲーム、調理団体とどれも素晴らしくよく考えて出来上がった作品でした。私は前日準備で明るい中見回るので精いっぱいでした。調理団体も量産するには手間のかかるメニューに作り上げ来場者から「美味しい」という声をたくさん頂きました。皆さんが来場者の胃袋を満たしてくれたおかげで平和なぼろにあ祭が行えたといっても過言ではないでしょう。

そんな楽しかったぼろにあ祭も終わり、いよいよ高校生活最大の思い出に残る行事、修学旅行が近づいてきました。地方での家業体験、平和・防災学習と盛りだくさんですが、まずは体調を整えて全員そろって出発できるよう願っています。そして皆さんの進路実現に向けた取り組みもいよいよ本格化する時期です。自分の進路にあった選択をし、進路実現に向けて毎日の授業を大切に受けて、家庭での学習も疎かにしないようにお願いします。高校生活も折り返し地点、勉強と行事や部活を両立させて、充実した学校生活を！！

受験生は本番ギリギリまで伸びる

第3学年 眞鍋 紀子

高3の夏。受験勉強も本格化するこの時期に、なぜ演劇祭なんてやらなきゃいけないのか。

1学期、企画の話し合いの段階から、そんな重い空気が教室中に充満していた。

そりゃ、そうだ。気持ちは分かる。2年の終わり頃から「受験は甘くない」と散々担任団から脅かされ、模試の結果が容赦なく現実を突き付けてくるのだから。限られた時間は自分のために使いたい。一分一秒でも多く勉強しなくては。

しづしづ各方面で役割を担うことになってしまった人のいい人々は、「なぜ自分ばかりがこんな思いを…」と歯ざしりしながら自らの責任感の強さを呪ったことだろう。夏休みも大して人も集まらない。明日はリハーサルなのにキャストが全員揃わない。あれやこれやが重なって登校禁止になった最後の土日。ただでさえ時間が足りないのに此の期に及んで脚本を変えたいと言い出す人々。当然、反対する人々。…本番まであと一週間。ああ、もうダメだ。クラスは空中分解だ…。

しかし、脚本を変えたいと言いつつにも理由があり、彼らの熱い思いがそこにはあった。そしてそれを聞き届け、受け止めてくれた彼女たちの懐の深さもあった。

全員が、精一杯の歩み寄りを見せ、何とかひとつのものを作り上げようと持てる力を発揮した。タイミングとしてはギリギリだったかもしれないが、自分が主張すべきところは主張し、互いの違いを認めながら相手の思いも尊重し、目標に向かってみんなで走る——そういう行動や気持ちのやり取りは「3年生」の「今」だからこそできたのではないか、とも思うのだ。

貴重な高3の夏に経験したことが、決して無駄なんかではなく、ただの思い出で終わることもない、学びの多い有意義なものであったと信じ、今後の飛躍に期待したい。

経営企画室からのお知らせ

今年度の就学支援金、給付型奨学金、奨学のための給付金につきまして、ご協力いただきありがとうございます。就学支援金についての家計急変等による随時申請以外は、今年度の受付は終了いたしました。

1・2年生につきましては、3学期になりましたら、来年度の給付型奨学金についてのお知らせをすることになるかと思っておりますので、その際はよろしく申し上げます。